

第 10 回鴻巣歴史再発見の街歩き

街歩きクラブ
事務局: 石黒

- | | |
|------------|---|
| 1. 訪 問 地 | 鴻巣の歴史を訪ねて |
| 2. 日 付 | 平成 31 年 4 月 16 日(火) |
| 3. 集合時間 | 鴻巣駅改札口 午前 9 時 30 分 |
| 4. ポ イ ン ト | 古代の息吹から中山道を通して、江戸時代の発展を探る街歩き |
| 5. 食 事 | 小山屋食堂 川幅うどん(うどん、おいなり、サラダ付
(荒川のある鴻巣と吉見の川幅が日本一の 2537mを記念して考えられた) |

★当日のスケジュール(行程表)

鴻巣駅改札口	鴻神社	法要寺	生出塚窯跡	市役所鴻巣御殿
9:30	9:50	10:15	10:45	11:15
クレア埴輪室	市役所前バス停	鴻巣駅バス停	鴻巣御殿跡	小山屋食堂 川幅うどん
11:25	11:50	12:00	12:10	12:20~13:00
勝願寺	観光協会ひなの里	本陣跡	駅前交差点掲示板	鴻巣駅ゴール 解散
13:10	14:00	14:45	14:50	15:00



鴻神社にて 1 班のグループ



鴻神社にて 2 班のグループ

◆ 今回の鴻巣の街歩きは、伊奈学園の卒業したあと各地区の活動団体の「彩央会」の先輩で鴻巣観光のガイドを行っている方がおりましたので、ご依頼したところ快く引き受けて頂いたものです。鴻巣の町は大宮台地にあつて、西側には吉野川（現在は荒川）東は元荒川に挟まれた台地で、7～8世紀は埴輪の一大生産地であり、江戸時代は中山道が通っていて、本陣があり交通の要地として又産業としては人形の町として岩槻と共に有名でした。普段何気なく通り過ぎている町ですが改めてガイドして頂き、再発見の街歩きとなり大変楽しく有意義な1日となりました。



コウノトリ伝説の「鴻神社」の鳥居、まだ桜の花が少し残っていた



1 班のガイド熊谷さんの解説から、今日の街歩きがスタートした



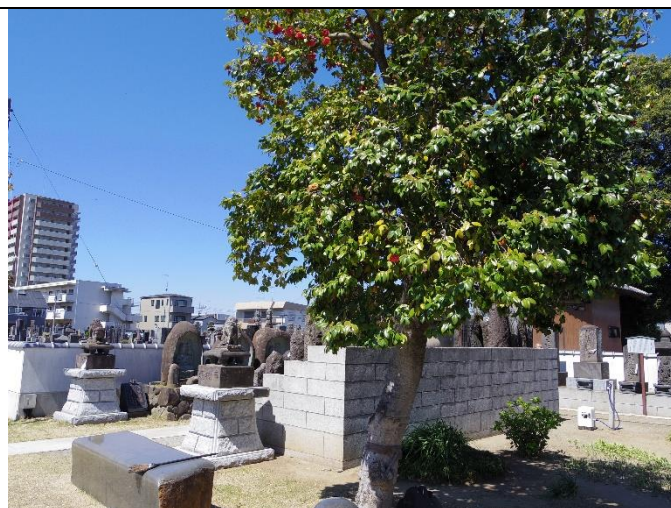
中山道の街道絵図に鴻神社とおコウノトリが描かれておりました



卵に願い事を書いて納めた



「法要寺」建立は戦国時代で、寺紋である梅鉢紋は加賀藩前田氏に宿所を提供した事による



法要寺内にある、「散り椿」椿は普通は額から落ちて首をイメージしたがこの椿は花びらだけ散る



「生出塚窯」5 世紀末に、この場所に東日本一の埴輪窯があった、大宮台地の5mの段差を利用



市役所内にある鴻巣御殿のジオラマ、精巧に出来ていて大きな館である事が伺われる



「クレアこうのすの」にある埴輪室



埴輪の種類の多さと、大きさにビックリ



人物埴輪は起源神話に見られる殉死の代用とした説が否定されて、今日でも埴輪最大の謎



「貴人埴輪」東京オリンピックでもポスターに採用された市松模様、昔の人の美意識に感激



家康の鷹狩りの際に休泊する場所だった「鴻巣御殿」の残った入り口の狭さに通り過ぎてしまいそう



鴻巣御殿として残っている遺跡、市役所にあるジオラマと比べてあまりにも小さいのでビックリした



昼食はガイドさん推奨の「川幅うどん」の小山屋食堂を予約しました



唯一ビールを頂いたグループ美味しそう！！



皆さんに川幅うどんを箸で持ってもらい幅が広いところを表現してもらった



「川幅うどん」は鴻巣と吉見の荒川の川幅が日本一になったのを記念して幅の広いうどんを考えた



伊奈忠次と忠治の親子墓の前で、奥さんの墓石の方が少し大きいのにはビックリしました



真田小松姫の墓の前で、ガイドさんが解説と朗々と歌を披露し感心して聞き入っているところ



勝願寺の本堂、家康から三つ葉葵の使用の許可を得た、焼失したが明治 24 年に再建された



「白井権八もの言い地蔵」、現在 3 か所にあるが勝願寺にある地蔵が建立 1672 年で 1 番古い



仏教を学ぶ僧が学問修行するところ、「梅檀林」の額が架かる惣門、下馬札が建てられていた



「鴻巣本陣跡」この辺りに本陣があったという標石が建っているだけ



駅通りと中山道の交差点に最近造られた鴻巣宿の道標



有志 10 名で鴻巣駅前の居酒屋で反省会を実施、次回の街歩きの候補地など歓談する